

子吉川「大規模氾濫時の減災対策協議会」概要

平成29年5月8日
第3回 子吉川「大規模氾濫時の減災対策協議会」

水防災意識社会 再構築ビジョン

関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「**水防災意識社会 再構築ビジョン**」として、全ての直轄河川とその沿川市町村（109水系、730市町村）において、平成32年度目途に水防災意識社会を再構築する取組を行う。

<ソフト対策> ・住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「**住民目線のソフト対策**」へ転換し、平成28年出水期までを目途に重点的に実施。

<ハード対策> ・「洪水氾濫を未然に防ぐ対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「**危機管理型ハード対策**」を導入し、平成32年度を目途に実施。

主な対策

各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。



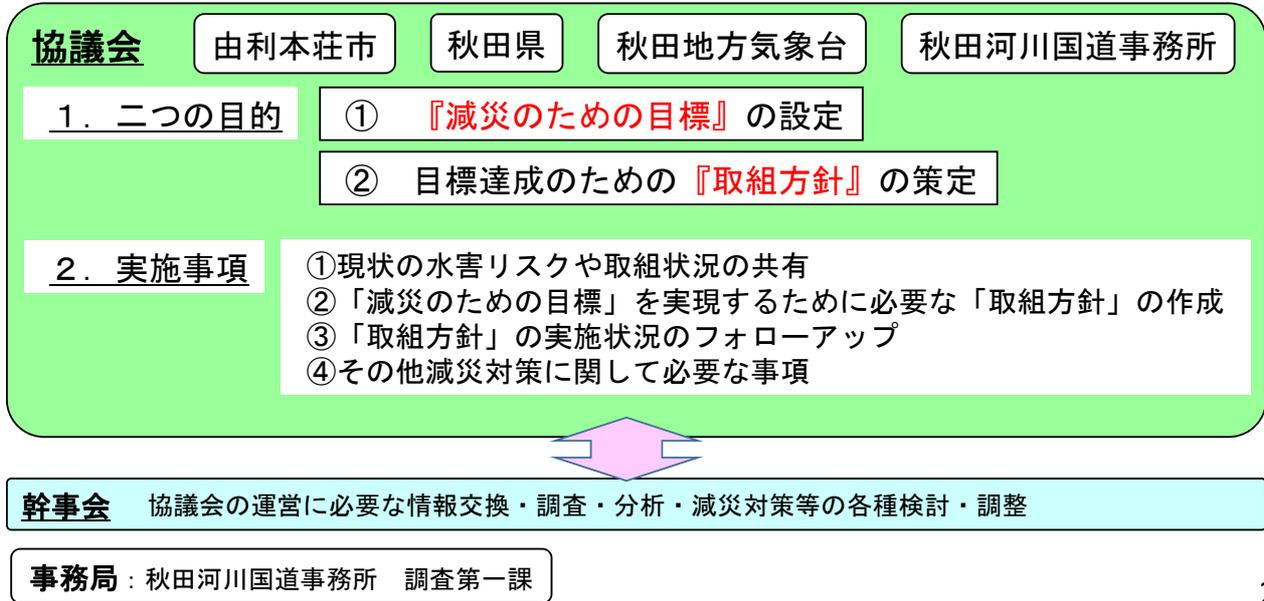
子吉川「大規模氾濫時の減災対策協議会」の構成と目的

1. 協議会の設立 [平成28年5月13日]

「水防災意識社会再構築ビジョン」は「減災のための目標」を共有し、ハード・ソフト対策を一体的かつ計画的に推進することを目的とする。

このうち、本協議会は「住民目線のソフト対策」の策定・実施について、由利本荘市・秋田県・国等の関係機関が協議・情報共有を行う事を目的に設立する。

2. 協議会の構成と目的



2

減災のための目標 [平成28年5月13日設定]

■減災のための目標

子吉川は近年まで度重なる水害が発生している河川である。その特徴として、本川と3支川がほぼ同時に合流すること等から**急激な水位上昇が生ずるため、迅速な防災行動**が求められる。

今後、発生しうる大規模水害に対し、子吉川では「**伝える・促す・守りきる**」取組を着実に進め、氾濫被害の最小化を目指す。

■目標達成に向けた3つのキーワード

「**伝える**」適切に情報を収集し、わかりやすい情報を、速やかに伝える取組

「**促す**」判断・行動の遅れによる被災を防ぐための迅速・確実な避難行動を促す取組

「**守りきる**」住民の暮らしと生命を守るための現場での取組および住民自らが行う取組

3

子吉川の減災に係る取組方針[平成28年9月2日策定]

ソフト対策

各構成機関が実施するソフト対策のうち、**現状の取組を継続して実施していくとともに、想定最大規模の洪水による大規模氾濫に対応した現状の取組の見直しと今後新たに取組んでいく主な項目・目標時期・取組機関**について取りまとめた。

■ 「減災のための目標」達成に向けた3つのキーワード

①「伝える」

適切に情報を収集し、わかりやすい情報を、速やかに伝える取組

②「促す」

判断・行動の遅れによる被災を防ぐための迅速・確実な避難行動を促す取組

③「守りきる」

住民の暮らしと生命を守るための現場での取組および住民自らが行う取組

現状の水害リスクや取組状況と課題を整理

「減災のための目標」を達成するための対策 = 取組方針

■ 「子吉川の減災に係る取組方針」

- 現状の取組を想定最大規模の洪水による大規模氾濫に対応するよう見直しながら継続実施
- 課題を解決するための新たな取り組み

— 3つのキーワード毎に「取組方針」を整理 —

①「伝える」取組

②「促す」取組

③「守りきる」取組

協議会スケジュール(平成29年5月時点)

